

前進座

「南の島に雪が降る」公演終了!

澤田 桂子

戦後七十年特別企画の前進座公演が、七月二十八日上演されました。

去る四月二十八日、高知公演を成功させる会の第一回実行委員会が開かれ、実行委員長を初めとする事務局長や事務局員、そして、各団体の代表者及び個人の実行委員で、事務局体制が立ち上げられ、その後、六月二日には公演を成功させる100人委員会結成総会が開催されました。高退協からも八名が100人委員会に入り、公演当日までに四回の委員会と六回の事務局会がもたれ、当日までの日程や準備、宣伝や進捗状況と今後の取り組み、チケットの売上集約、前日の準備や当日の役割と分担などが話し合われました。

毎回の委員会では、前進座の俳優の方や制作部の方を囲んで交流会も行われ、稽古の真っ最中のような男性ばかり十五人の配役が、兵隊を演じるためにダイエツトもしながら体型作りをしている制作裏話や上演最新情報などを聞き、劇団員と100人委員会の方々が生ビールと手料理で盛り上がり、上演成功に向けて熱いをつけた。

当日の入場者数は昼の部539名、夜の部346名の合計885名でした。高退協では42枚のチケットを売り上げましたので、4.8%協力したことになりました。ご協力してくださった方々ありがとうございました。

「こんな時だからこそ」

～歴史と憲法は私の友達～

田所 金久 著
高教組書記局においでます。ご自由にお持ちください。

さて、作品は、戦前に前進座で活躍されていた加東大介さんが、過酷な西部ニューギニアで体験された自らの手記がもととなっていました。二度目の召集令状が届き、衛生隊長として向かった先のマノクワリ。仲間の兵士たちが食糧難と疫病などに次々と亡くなっていく日々。ところが、その地で彼の舞台を知る演劇評論家・長唄の

三味線弾き・舞踊の教師・脚本家・カッラ屋・友禅職人・喜劇俳優といった人たちがこの奇跡的な出会いを待っていたのでした。兵士たちを鼓舞するため、彼を中心に演芸分隊が立ち上げられる。衣装や髪や小道具、そして、マノクワリ歌舞伎座という劇場までもが建てられ、演芸分隊は屋間の兵役を終えて、夜間に練習して演じ、毎夜、島中から、死と隣り合わせの兵隊たちが大勢押し寄せて来たという。戦地のただ悲惨なようすだけでなく、面白さをも感じさせる内容であった。ニューギニアは常夏で秋と冬がない。生きて日本に帰れないかも知れない東北出身の部隊の者が、懐かしい故郷を思い出して、「雪が見たい。」と言った。四季がない所に季節を作った

ちとの奇跡的な出会いを待っていたのでした。兵士たちを鼓舞するため、彼を中心に演芸分隊が立ち上げられる。衣装や髪や小道具、そして、マノクワリ歌舞伎座という劇場までもが建てられ、演芸分隊は屋間の兵役を終えて、夜間に練習して演じ、毎夜、島中から、死と隣り合わせの兵隊たちが大勢押し寄せて来たという。戦地のただ悲惨なようすだけでなく、面白さをも感じさせる内容であった。ニューギニアは常夏で秋と冬がない。生きて日本に帰れないかも知れない東北出身の部隊の者が、懐かしい故郷を思い出して、「雪が見たい。」と言った。四季がない所に季節を作った

辺野古新基地NO!・沖縄県民は屈しない!

沖縄と連帯する
高知のつどいⅡに250人が参加

講演 琉球新報東京支局報道部長 島 洋子氏
報告 沖縄県訪米団長 共産党県議・渡久地 修氏
國松 勝

7月18日、塩田町の高知市保健福祉センターで高知県革新懇主催による連帯のつどいが開催されました。昨年8月、沖縄県知事選挙で翁長雄志氏を擁立し闘った「オール沖縄」に連帯する集いに続いて行われました。6月末、違憲の戦争法案の国会審議中、自民党本部での若手議員の勉強会で、「沖縄の2紙を潰せ」などと言論弾圧や暴言、さらには米軍による普天間基地建設強行に対する反対闘争への悪意に満ちた歪曲と捏造など大問題となりました。こうした

見せた、加東大介。そのクラ イマックスのシーンには、胸に ジーンとききました。加東さんが我々に伝えたかったものは何なのか。色々考えさせられますが、「おれたち、こういうふう生きてきた。」というふうでしようか。

今日安倍政権の下で論議されている安保法案のこと、戦争とは、ニューギニアとは、などと一層考えさせられたものでした。夜の部終演後、後片付けの後、劇団員の方々(加東大介役の嵐芳三郎さん、司令部参謀役の藤川矢之輔さん、演芸分隊長役の山崎辰三郎さん、長唄師匠役の中嶋宏太郎さん、制作部の豊田美智恵さん)を迎えて、21時50分から100人委員会のメンバー十八名の参加で打ち上げ会をしました。熱気にあふれ、その夜は、一次会で明るく日となりました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

状況の下で行われた講演と報告は大変注目を集めました。島 洋子氏は、自民党議員や作家の暴言の背後には、メディアはどうにでもできるという驕りと、県民の間に広がる基地反対運動の高まりとオール沖縄支持の広がりに対する苦しい思いがあること。また、辺野古への基地移設賛成の候補者は、直近の選挙ですべて負けており、彼らは「世論が新聞にゆがめられている」と言うがそれは県民をバカにめられているなど思っていない。戦前戦後を通じ沖縄に

高退協発足40周年記念親睦旅行のお知らせ

今年の親睦旅行は、11月5日(木)、6日(金)に岡山県真庭市、兵庫県姫路市方面と決定しました。日程一日目に訪れる真庭市では、豊かな森をみなもとにした化石燃料に替わる木質バイオマス発電を行っている銘建工業を視察研修します。その後、のれんが並ぶ旧街道でレトロなお店などを散策し、古き良き日本にタイムトリップをし、宿泊地の湯郷温泉へ。二日目は、日本初の世界文化遺産となり、今春、五年に及ぶ大天守の修理を終えて、その名の白鷲のごとくよみがえった「姫路城」へ。帰りには、岡山ワイナリーでワインの試飲をし、ほろ酔いで帰路につきます。気候も良く、快適な旅となることと思います。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。詳細については、チラシとハガキを送付しますのでご覧になって参加の有無をお知らせ下さい。

温泉昼食会のご案内

ゆっくり温泉に入って、おいしい昼食をいただきますか?
10月8日(木)に土佐和紙工芸村「くらうど」に集合!
9時30分 高知城ホール 発 (送迎バス)
入浴・食事 14時30分 高知城ホール 着
会費は3000円、ちょっぴり酔えますよ、誘いあって お申し込みを

は11の新聞社があったが、戦後紙が米軍による配給制になり、配給をとめられたこともあった。それらを乗り越え県民の世論に突き動かされ今の新聞がある。県民の世論が新聞を支えていることを熱く語りました。

去年の12月の総選挙、沖縄では自民党は完敗、それは、辺野古移設反対の公約を掲げた知事も国会議員も自民党幹事長の圧力と金で、わずか5カ月で公約を破ってしまった。沖縄県民は、明治の「琉球処分」を連想し、沖縄の「プライド」を傷つけたと考えている。

いま沖縄県民は、基地が沖縄経済振興を阻害している要因になっていて、国内では基地が経済振興の阻害要因であることが理解されている。翁長知事とともに訪米した渡久地修氏(共産)は、アメリカ政府の中枢部に辺野古基地を許さない県民に強い声を直接届けた成果を報告しました。